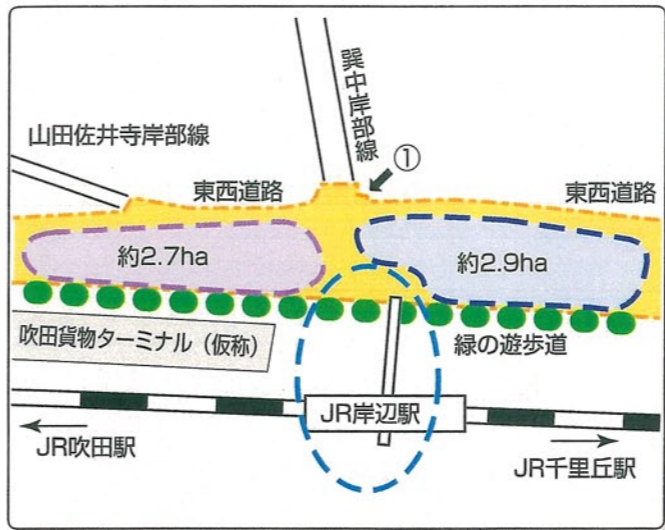


「100年に一度」の大不況—東部拠点開発は大丈夫??

岸辺駅周辺

「公害道路いらない」「大事なことば住民投票で決めてほしい」「1日千台のトラックはいやや」。吹田市民の願いもむなし、梅田貨物駅の吹田への移転工事が進行中だ。計画では地図のように、(仮称)吹田貨物ターミナル駅が作られる。その北側、つまりJR岸辺駅付近の5.1ヘクタールが「エコマディカルシティ」として大変貌するというのだ。しかしちょっと待って！アメリカ発の、「100年に一度」の不況が襲っている今、本当にこのような大規模開発がうまくいくのだろうか？



結局は税金で尻拭いすることになるのでは？そんな疑問&危惧を抱きながら岸辺駅を歩いてみました。

まずは地図の①、岸辺駅地下道の出口、岸部中4丁目8番付近(矢印)へ。工用大型トラックが行き交い、土砂が積み上げられているが、操車場跡地があまりにも広大なため、工事がどこまで進んでいるか、すぐには分からない。計画では、JR岸辺駅が橋上化され、南北自由通路ができる予定だ。確かに今の岸辺駅の出入り口は南側一か所だけなので、橋上化されて自由通路ができれば、かなり便利になる。地元住民ならずとも、早期に実現してほしいと思った。



岸辺駅南側でも工事が始まった

地下道を歩く。おっと、これは長い。昼なお暗いこの地下道は、ちょっと不気味。地下道の中ほどに境界線が



昼なお暗い地下道。ちょっと不気味



地下道の中ほどに境界線が



×ロート吹田から見た操車場跡地の全景。この不況下、大規模開発に不安が...

工事なのか、にわかには分からない。吹田駅に近く、ほぼに敷地の幅が狭くなっている。(仮称)吹田貨物ターミナル駅ができる場所の土地が掘り返されている。岸部側は「エコマディカル」かもしれないが、吹田側は公害が心配だ。計画は今、どんな段階なのだろうか？吹田市東部拠点整備室に現況を尋ねた。

岸辺駅前5.1ヘクタールの土地が「エコマディカルシティ」になるのですか？「そうです。UR(都市再生機構)がこの土地を90億円以上で事業者に売って、その売却益で、道路や上下水道などを整備し、事業者はこの土地に病院

などを誘致することになります」

吹田市は負担せず。?

「いえ、補助金として国が10億円、大阪府と吹田・摂津両市で5億円ずつ、合計20億円をこの事業に拠出します」

事業者はどのように決めるのですか？

「コンパ方式で参加を募ります。しかし想定外の大不況が襲ってきたので、

景気の動向を見極めながら「コンパ」をすべし」と思っています。

2011(平成23)年春、(仮称)吹田貨物ターミナル駅が開業し、この広大な「エコマディカルシティ」は街びらきを行うことになっている。しかし表裏一体の関係になる「梅田北ヤード

再開発」も、景気悪化がもたらす響き、街びらきが遅れている。あの梅田でさえ、テナントビルに空きが目立ち、百貨店も苦戦している。果たしてこのまま計画通りに進めていっても大丈夫なのだろうか？背伸びせず、「跡地は公園」にしておいたほうが、吹田市の身の丈にあっているのではないだろうか？

あの梅田でさえ、空気が自立つテナントビル 吹田市は背伸びせず「跡地は公園」にしては!!



JR吹田から岸辺駅の車窓から、大規模工事が進行中

岸辺駅から「エコマディカルシティ」予定地を写す。病院はやって来るのか？



勝手に吹田遺産

「出口座」の操り人形

その9

片山公園にある中央図書館一階に人形劇団「出口座」のユーマのある操り人形が飾られている。この人形をつかったのは、出口町に住んでいた阪本一房さん。そしてこの人形芝居のルーツをたどると大正時代にまでさかのぼることになる。大正デモクラシーと言われた時代だが関東大震災を前後して左翼的な人たちが弾圧が強まり、演劇の世界でも「左翼人の演劇活動はため」と禁止された。そんな中「人間はためでも人形劇なら良いだろう」といってこの演劇家の千田是也、画家の小野



テレビ放送がはじまるまで紙芝居は下町の人気を独り占めた

戦後のほとんども人形劇と紙芝居といふこともこのキャラクターで過ごした阪本さん、1975年念願の常設劇場を持つことになる。このころの阪本さんを知っていたYさんに尋ねると「出口町の高台にあったアパートの管理人をしないか」という話があって、阪本さんはいつの間にか、使わなくなった食堂棟を人形劇の小屋に改造して「わ」といふことになる。ともあれ人形劇団「出口座」が生まれ、ささやかに人形たちが舞い、笑い、泣いたのだ。中央図書館の操り人形には、それが作られた人と歴史、観客であった子どもたちのさまさまな思いが込められていたのだ。

佐世男、音楽家の小代義雄さん達が集まって東京で「人形座」を結成し人形を通して演劇活動をした。この中のひとり小代義雄さんが大阪音楽学校の教授に就任のため大阪へ、同時に「大阪人形座」を結成するが、太平洋戦争へと向う圧力の中「1940年に当局によって解散せられた。この「大阪人形座」の小代さんは東京音楽学校を卒業した声楽家で、1930年の神戸市電のストライキには現場に駆けつけて、連帯の独唱をするなど貧しき人々の先頭に立った人